

令和6年度  
オーバーツーリズム抑制による観光推進事業

# 事業説明会

開催日 令和6年9月12日  
時間 18:00～19:00  
場所 恩納村役場 2階 大会議室

1. 開会
2. 恩納村挨拶
3. 事業説明
4. 質疑応答
5. 事務連絡
6. 閉会

## (1) 目指すありすがた

### ① 恩納村第6次総合計画（恩納村第2期総合戦略）

#### ■ 基本理念

- (1) 自然を愛し、人と自然が共生する美しい村
- (2) 人間を尊び、互いを支え合う心豊かで共生の村
- (3) 子どもたちの伸びゆく力を育て、活力ある村
- (4) 心も体も健康で、安心して暮らせる村
- (5) 魅力あふれる活力のある元気な村

#### ■ 将来像

恩の青 豊かな緑 輝く人々  
未来へつなごう 恩納村

## (1) 目指すありすがた

### ① 恩納村第6次総合計画（恩納村第2期総合戦略）

#### ■ 基本目標（一部抜粋）

#### 4 【産業・経済】 恩納ブランドをいかした活力と魅力ある産業の村

4-2 水産業の振興 ・ 里海と漁業環境の保全・再生

4-4 観光業の振興 ・ 地域資源の保全と活用の観光振興

#### 5 【環境】 ・ 美しい自然と調和した潤いのある村

5-1 自然環境の保全・創出 ・ 海域生態系の保全と創出・陸域環境の保全と創出・景観の保全と創出

5-2 生活環境の保全・創出 ・ 循環型社会の構築・公害対策の充実・環境衛生の向上

# 1. 実施背景

## (1) 目指すありすがた

### ②恩納村第2期SDGs未来都市計画

#### ■2030年のあるべき姿

- ① サンゴにやさしいライフスタイル
- ② 世界水準のスマート・エコリゾート
- ③ ネイティブが活躍するむら

#### ■2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット (環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 14 (14.1/14.2)	指標: 造礁サンゴ類被度 25%以上の割合	
	現在(2020年): 50%	2030年: 50%

#### (取り組みのゴール※抜粋)

行政がサンゴ保全を図るだけでなく、サンゴを傷つけない、環境に優しい商品を購入する、省エネを心がける、自然環境について学ぶ、自然の中で遊ぶ等、サンゴに優しいライフスタイルの村民への普及を図り、村民の生活と豊かな自然が共存していくように啓発活動を行う。また、観光振興への取り組みを進めるとともに、(仮称)環境税(持続的なむらづくり推進税)やGreen Fins(後述の導入などを行い、サンゴを始めとした自然環境の保全を図る。

⇒次ページに続く

# 1. 実施背景

## (1) 目指すありすがた

### ② 恩納村第2期SDGs未来都市計画

#### ■ 自治体SDGsの推進に資する取組

##### ① サンゴを中心とした豊かな自然あふれる社会の実現

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 14.2	指標: 造礁サンゴ類被度 25%以上の割合	
	現在(2020年): 50%	2024年: 50%
	指標: 養殖サンゴ植え付け本数	
	現在(2020年度): 34,997本	2024年: 43,000本
14.c	指標: Green Finsの視察件数	
	現在(2020年度): 3件	2024年: 10件
 11.a	指標: 啓発セミナーなどへの参加人数	
	現在(2020年度): 624人	2024年: 1,500人

##### 【取り組みの概要】

サンゴの保護・再生や、こうした活動への企業参画の促進及び財源の確保、さらに村民の生活の中に環境への配慮が根付くような啓発活動を行っていくことにより、サンゴを中心とした豊かな自然あふれる社会を実現する。

##### ② 多様なステークホルダーと連携したサステナブルツーリズムの実現

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12.8	指標: ローカル認証を取得した製品・サービス数 民間事業者と連携した持続可能な消費促進に関する取り組み	
	現在(2020年): 0件	2024年: 3件
 8.9	指標: 恩納村ダイビング協会加盟店のうち Green Fins を導入する店舗の割合	
	現在(2020年): 20%	2024年: 50%
 8.1	指標: 1人当たり村民所得	
	現在(2018年度): 2,955千円	2024年: 2,980千円
	指標: 経済活動別市町村内総生産におけるサービス業の総生産額	
	現在(2018年度): 17,647百万円	2024年: 18,000百万円

##### 【取り組みの概要】

観光・消費活動が環境保全に繋がる仕組みの導入、自然環境負荷の小さな観光スタイルの創出や観光客への啓蒙を行い、恩納村の観光の高付加価値化・ブランディングにつながるような有機的なつながりを構築する。

## 2. 真栄田岬周辺の現状と課題

### (1) 真栄田岬の概要

- 周辺の海岸域一帯（沖縄県国頭郡恩納村山田区～真栄田区）は沖縄海岸国定公園に含まれる。
- 年間利用者数30万人以上（琉球新報2020.4.26）と国内随一のダイビングサイトとして知られる。
- ピーク時の利用者数は7,000名/日以上と推定される沖縄随一の観光スポット



## 2. 真栄田岬周辺の現状と課題

### (2) 真栄田岬周辺で発生している事象

発生する事象は、立場や考え方によって差が生じることがある。

問題とその本質（発生原因）を見極め、解決策を検討することが重要。

	エリア	発生している事象	問題	問題の本質
1	陸域	交通渋滞が発生している	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客のストレスの蓄積</li> <li>村民との交通事故の懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合型店舗の増加</li> <li>駐車スペースが少ない</li> </ul>
2	陸域	周辺の路上駐車が散見される	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急車両や農業専用車の通行の妨げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合型店舗の増加</li> <li>駐車スペースが少ない</li> </ul>
3	陸域・海域	ごみのポイ捨てなどの問題が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系への悪影響が生じ、漁業活動の低下にもつながる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育の不足</li> <li>ごみ箱の少なさ</li> </ul>
4	陸域	駐車場での営業行為が多発している	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合型店舗の増加につながり、低価格競争が起きている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場料金の安さ</li> <li>事業者の無知</li> </ul>
5	陸域	各漁港が集合場所となっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁港内の作業車両と観光客のすれ違いによる安全性への懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁港内の明確な利用方法がない</li> <li>ゾーニングなし</li> </ul>
6	海域	海の利用方法など、マナーを守らない観光客や事業者が増えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系への悪影響の懸念と利用者の満足度（質）の低下が懸念される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用に関するルールがない</li> <li>認知されていないこと</li> </ul>
7	海域	水難事故が他地域に比べ比較的多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>真栄田岬のブランド力の低下につながる恐れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般観光客や事業者の安全な利用法の周知不足、事業者の質の低下、安全管理不足</li> </ul>
8	海域	サンゴの踏圧が散見される	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚の住処が奪われ、海域の魅力低下につながる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般観光客や事業者の環境教育の周知不足</li> </ul>

出典：環境に配慮したマリンレジャー等の自然フィールド利活用に係る持続可能で高付加価値な海洋観光の推進に向けた実証事業報告書

### (3) 真栄田岬で顕在化している問題

#### 環境負荷の増大

許容量を超える利用者の増大によって  
**生態系への悪影響**が深刻化

#### 生活環境への悪影響

交通渋滞、違法駐車、騒音、ゴミのポイ捨てなど、  
**住民にとって過大な負荷やストレス**が発生

#### 安全性の低下

事業者の急増による過度な価格競争等によって、質の低下による水難事故が増加→**10年間で死亡事故の発生件数13件**※1

## 2. 真栄田岬周辺の現状と課題

### (4) 真栄田岬の課題整理

大項目	中項目	事象
海域利用に関する課題	青の洞窟前の混雑	●各港から一斉に出航するため、青の洞窟前に混雑している様子が確認できた。15分単位などをずらした出航などを検討することで、洞窟前の混雑を避け、ロストの未然防止やサンゴ踏圧等を抑制する必要がある。
	ジェットスキーの利用者	●スノーケル利用者がある状態で、ジェットスキーが青の洞窟の近くまで侵入しており危険な状況があった。船主から寄せられた意見の中には、ジェットスキーを案内している反グレの時業者がいるとのこと。事業者の実態が把握できていないことから、身元特定を行う必要がある。
	船主判断による催行基準	●現在、催行中止に関する基準があるものの（波浪警報）、利用催行基準がなく船主の判断によって利用有無を決めている。実証期間中に荒れている状態でも訪れている船があり、大きく波に揺られている状態が確認できた。波の高さと風向きなどを参考に利用基準を検討することも考えられる。
真栄田岬公園におけるルールのご案内	駐車場の問題	●ピーク時には1ショップあたり3～5台ほど駐車しており、施設営業時間いっぱいまで駐車している。 ●ショップへのヒアリングでは、お客様との現地集合も含めて駐車料金を多く支払っており、真栄田区に貢献しているという認識でいることが分かった。 ●大型バスの駐車スペースにショップが駐車しているケースが散見される。 ●現地集合型ショップの中には所在地を真栄田岬公園にしているショップがある。
	ごみの問題	●タバコの吸い殻が駐車場に捨てられており、毎朝公園管理スタッフが清掃している。 ●一般利用者がスノーケルセットを捨てる。
	営業行為	●現金收受している現場を多く確認した。聞くと領収書を発行していないショップもあることが分かった。 ●占有行為は毎日確認され、利用ルールの提示など注意喚起をしても効果がなかった。
	迷惑行為	●駐車場にてキャスターボードで遊んでいる方（事業者）があり、車両の操行の妨げとなっていた。
港からのエントリーに関する管理	営業車の常駐	●過去に港の目的外使用として行政からは正動告を受けたショップがあり、現在も棧橋付近に営業車を停めている。
	利用届の未提出	●利用人数やショップ名の報告が伴う利用届への強い反発があった。スタッフからの報告には、税務署関連の調査なのか確認があったとの事。 ●他ポイントへの出航と偽って利用届を提出しないショップが後半になるにつれて多くなっていった。
	環境教育の実施	●お叱りを頂いた漁師からは、「サンゴは漁師にとって邪魔者」といった趣旨の発言があった。
ショップのモラル	水上安全条例の未届け	●実証実験で登録（利用届を提出）したショップで、県水上安全条例（潜水業）の登録が確認できなかったショップが3ショップあった。 ●実証実験で登録（利用届を提出）したショップで、県水上安全条例（スノーケル）の登録が確認できなかったショップが31ショップあった。 ●その他、実証実験で登録（利用届未提出）していないショップが、52ショップあった。これは、単に真栄田岬を利用していないショップもあると推測できるが、提出に協力いただけなかったショップが大多数あると考えられる。
	利用届の未提出	●実証実験で利用登録に協力いただけなかったショップが半数以上いた。いくつかのショップからは、「税務署へ報告するのか」、「強制でないなら協力する必要もない」といった発言があり、その周辺のショップや漁師に対して号令をかけていた。 ●特に案内人数とショップ名を確認されることに強い嫌悪感を示しており、スタッフを恫喝する事例が4件ほどあった。
	サンゴ負荷への意識の低さ	●GreenFinsに記載されている餌付けについて、環境に良くないことを承知でありながら、「お客様が減る」ことを懸念しサービスしているショップが5ショップ程度確認ができた。 ●GreenFinsに記載されている手袋の禁止について、その重要性について把握しておらず、さらにはお客様がケガしたときの補償は恩納村がしてくれるのか。といった趣旨の発言があった。
	安全管理 (雇われインストラクター)	●ショップによって、有資格者を日雇いで案内しているショップがある。また、所属ショップのオーナーを通さず、スタッフ本人の意思により労力の貸し借りが行われていることも常態化しているとの事。仮に事故が起きた際には、所属先に登録しているショップの責任となる可能性がある。 ●軽石が大量に漂着している最中、青の洞窟にスノーケルを案内しているショップが3ショップあった。軽石を吸い込む等の事故につながりかねない。

出典：環境に配慮したマリンレジャー等の自然フィールド活用に係る持続可能で高付加価値な海洋観光の推進に向けた実証事業報告書

## (1) 過年度行われた実証事業

### ③環境に配慮したマリンレジャー等の自然フィールド利活用に係る持続可能で高付加価値な海洋観光の推進に向けた実証事業

#### ■目的と概要

【業務の目的】 ※一部抜粋

マリンレジャー等による環境や地域への負荷の抑制や安全性向上を図ること等により、持続可能で高付加価値な海洋観光を推進していく

【事業の概要】

恩納村真栄田岬を拠点に、マリンレジャーの持続可能で高付加価値な海洋観光の促進に向けて海域利用の一部制限等の実証を行った。

① 事前調査	5つの調査を実施。 ①海域利用実態および周辺地域への影響調査 ②環境負荷調査（サンゴ被度） ③安全性に関する調査（ダイビングショップへのアンケート） ④利用者に対するアンケート調査 ⑤持続可能なマリンレジャー等の実施ルールの策定状況調査
② モデル地域における実証	<ul style="list-style-type: none"><li>Green finsの周知や海域利用の届出制の実施。</li><li>事業者向けの海域利用ルール（入域制限等）の施行的実施。</li><li>真栄田岬周辺活性化施設を利用した環境教育および安全性に関する周知徹底</li></ul>
③ 協議会・地域部会	協議会：有識者や関係者から真栄田岬の高付加価値化に向けた手法やその考え方について協議。 地域部会：真栄田岬での具体的なルールの検討等について協議。
④ 恒常的な仕組みの検討	<ul style="list-style-type: none"><li>入域制限等（エリア、時間、人数等）を恒常的に行うため、協議会や地域部会等で議論された内容を基に検討する。</li><li>【組織】【計画】【財源】の観点から検討。</li></ul>

出典：環境に配慮したマリンレジャー等の自然フィールド利活用に係る持続可能で高付加価値な海洋観光の推進に向けた実証事業報告書

⇒次ページに続く

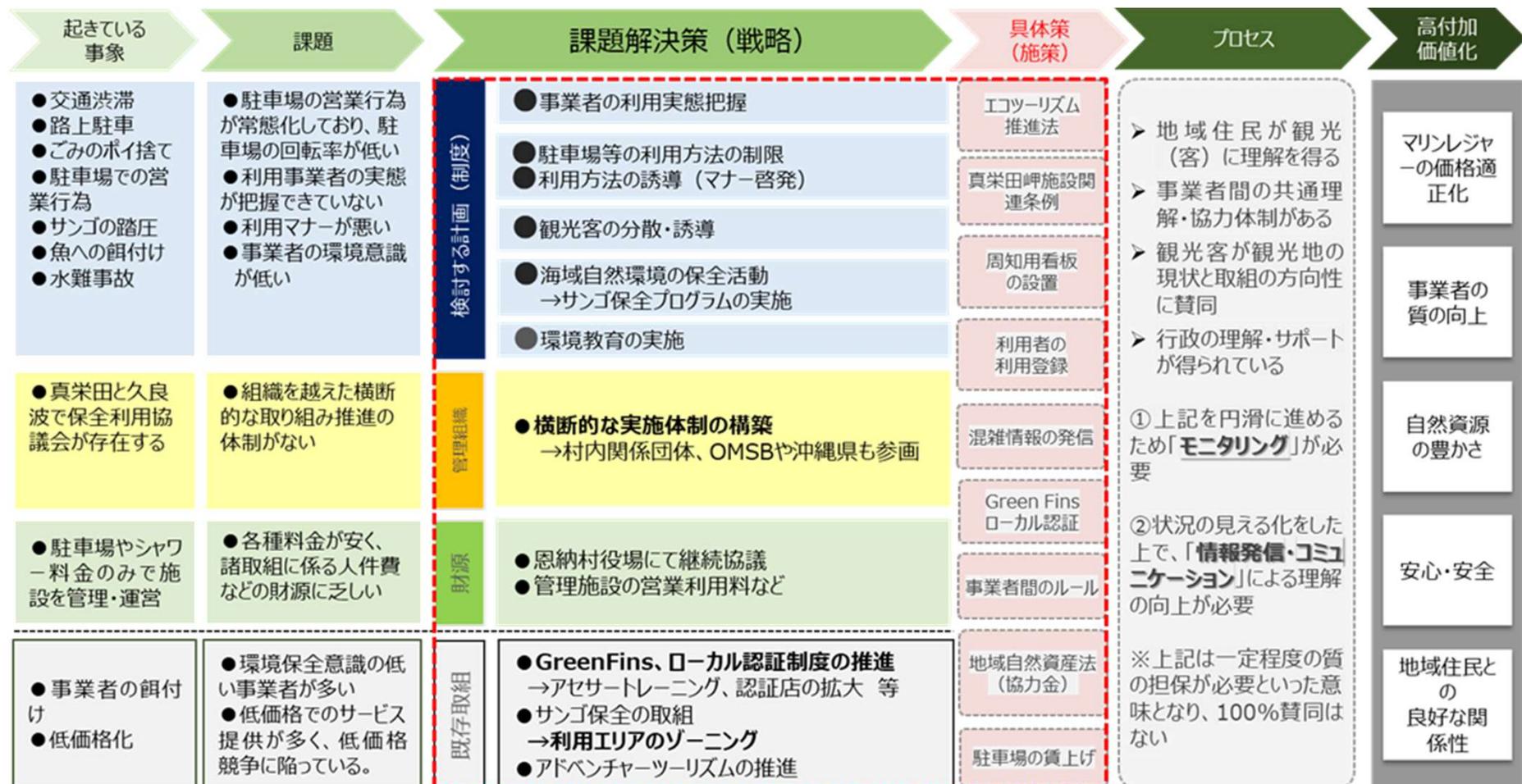
# 3. これまでの取り組み

## (1) 過年度行われた実証事業

### ③環境に配慮したマリンレジャー等の自然フィールド利活用に係る持続可能で高付加価値な海洋観光の推進に向けた実証事業

#### ■実証事業におけるアウトプット（協議会等による検討結果）

【真栄田岬周辺エリアにおける複数の課題に対し多角的な課題解決策を検討】



出典：環境に配慮したマリンレジャー等の自然フィールド利活用に係る持続可能で高付加価値な海洋観光の推進に向けた実証事業報告書

### (1) 本事業の目的

恩納村の観光において、マリンレジャーは重要コンテンツの一つであるが、利用者が集中する真栄田岬は許容量を超える利用者が訪れることによる**環境負荷**（サンゴ礁の減少、自然生物への悪影響）やオーバーツーリズムによる**地域への負荷**（違法駐車、交通渋滞、維持管理コストの増加等）、**安全面の問題**（事故等の増加、リスクの増大）等の弊害が懸念されている。

**持続可能な観光地域づくり**を実現するためには、地域のあるべき姿をイメージし、地域の実情に応じた具体策を講じる必要がある。

令和3年度に内閣府沖縄総合事務局運輸部が実施した実証事業を基に、真栄田岬における課題解決及び持続可能で高付加価値な海洋観光を促進し、恩納村SDGs推進計画と合致した「持続可能な観光」の実現を図るため、地域の多様な関係者による協議会を開催し、具体的な方策について検討を行う。

### (2) 本事業で達成したい目標（令和6年度）

## 課題解決策の導出と合意形成

### ①真栄田岬の利用の在り方

真栄田岬周辺地域及び恩納村の海洋エリア等の利用の在り方について  
持続可能な観光地域づくりに向けた基本方針を定める

### ②オーバーツーリズム対策の手法

将来を見据えたオーバーツーリズム対策について  
具体的な方策（有効な打ち手）と進め方について検討する

### ③合意形成の仕組み

幅広い多様な関係者の合意形成を図るための場づくりや具体的な仕組みに  
ついて検討する

### (3) 本事業の基本方針（コンセプト）

#### ①多様な関係者の共通認識を図る

恩納村の各種計画及び真栄田岬の現状や課題等について、きめ細かな情報提供を行い、多様な関係者の共通認識を図り議論を進める

#### ②次年度以降の具体的なアクションを導出するための議論

過年度実証事業や先進事例等をふまえ、世界の潮流や国内の動向などをふまえた解決策について検討し、具体的なアクションへつなげる

# 4. 事業概要

## (4) 事業の全体像

### ① 事業説明会

(趣旨)

多様な関係者への周知と理解浸透

(概要)

日時：9/12 (木) 18:00～19:00

場所：恩納村役場 2階大会議室

### ② セミナー

(テーマ)

オーバーツーリズム解決論

(概要)

講師：九州大学 田中准教授

日時：9/24 (火) 18:00～19:30

オンライン：zoom

### ③ 実態調査

(趣旨)

真栄田岬の利用実態と現状把握

(概要)

現地調査：真栄田岬

聞き取り調査：住民及び関係者

実績調査：真栄田岬施設等

## ④ 協議会の開催 (全3回)

### 第1回 (9/30)

(主な議題)

- ・ 協議会開催要旨
- ・ 事業概要 (目的、現状と課題)
- ・ 過年度実証事業の共有
- ・ 意見交換

### 第2回 (10/29)

(主な議題)

- ・ 課題解決策 (事務局案) の提示
  - ① 各種制度、仕組みについて
  - ② 他地域先進事例等の共有
  - ③ 実現に向けた方策について
- ・ 意見交換

### 第3回 (11/26)

(主な議題)

- ・ 課題解決策 (修正案) の提示
- ・ 次年度取り組み内容について
- ・ 意見交換

## ⑤ 報告書作成

- ・ 協議会の検討結果をまとめ、次年度の取り組みに向けた事業計画を整理する

### (1) 事業説明会

#### 開催趣旨

- ・ 村民、関係者を対象に事業説明会を実施
- ・ 取り組み内容の幅広い周知と理解浸透を図る（問題に対する共通認識）
- ・ 取り組みに対する不安や疑問を払しょくする

#### 実施概要

開催日	9月12日
時間	18:00～19:00
会場	恩納村役場 2階 大会議室
対象	恩納村民及び関係者 (観光・ダイビング・シュノーケリング事業者等) (最大100名)
形式/種別	対面

### (2) セミナー（オンライン）

#### 開催趣旨

恩納村が直面する様々な課題に対し、幅広い視点で解決策を検討するための新たな知見を得る機会を創出する

#### 実施概要

タイトル	『オーバーツーリズム解決論（日本の現状と改善戦略）』
開催日	9月24日（火曜日）
時間	18:00～19:30
講師	九州大学 准教授 田中俊徳 様
対象	恩納村民及び関係者 （観光・ダイビング・シュノーケリング事業者等）
形式/種別	オンライン/zoom

## (3) 実態調査

真栄田岬の利用実態や周辺地域への影響について調査を行う  
(駐車場利用者、施設の利用者、乗船客数、周辺道路の混雑状況等)

### 調査方法

- 実施日：9月14日（土）8：00～17：00  
※悪天候の場合は予備日にて実施（9/15、9/21、9/22のいずれか）
- (陸域) 階段の利用者を目視で計測（SCUBA or スノーケル、欧米系外国人か否か等）
- (海域) 青の洞窟周辺の利用エリアに係留した船舶ごとに、ボートからエントリーする利用者数を計数



## 5. 実施内容

### (4) 協議会の開催

項目	内容
開催目的	真栄田岬にて発生している様々な事象について、問題とその要因を特定するとともに、恩納村の『持続可能な観光』を実現するため、当該エリアの利用ルールや自然環境などへの負荷抑制等を図るため、様々な制度や仕組みを活用しながら、オーバーツーリズムを防止するための方策について協議を行う。
開催時期	第1回： 9月30日（月）14:00～16:00 第2回： 10月29日（火）14:00～16:00 第3回： 11月26日（火）14:00～16:00
議題・内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 真栄田岬の利用実態及びオーバーツーリズムの現状や課題について共通認識を図る</li><li>・ 『持続可能な観光』の実現に向けた具体的な制度や仕組みの構築について検討する</li><li>・ 課題解決策の実行するための『計画、組織、財源』等について、アクションプランを検討する</li></ul>
開催形式	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 対面形式※一部オンライン参加の場合あり</li><li>・ 委員の中から互選によって座長を選出※座長は議事進行及び事務局との調整を行う。</li></ul>
運営方式	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事務局にて事前の調整、開催準備、当日運営、資料作成等すべての業務を行う</li><li>・ 協議会の議事内容はデジタルデータに記録するとともに議事録を作成する</li></ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 構成員（協議会委員）は、恩納村長の委嘱を受けた地域関係者、行政関係者、学識関係者等で構成</li><li>・ 構成員リストは別紙参照</li></ul>

# 5. 実施内容

## (4) 協議会の開催\_\_委員一覧

※敬称略

団体種別	所属・役職	氏名（ふりがな）
観光関係団体・DMO	(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー 国内事業部長	金城修 (きんじょうおさむ)
	(一社) 恩納村観光協会 事務局長	名城一幸 (なしろかずゆき)
業界団体	恩納村マリンレジャー協会 会長	内原靖夫 (うちはらやすお)
	(一財) 沖縄マリンレジャーセーフティービューロー 事務局長	前原 勉 (まえはらつとむ)
地域団体	恩納村商工会 事務局長	安村祥子 (やすむらしょうこ)
	自治会 (山田区) 区長	比嘉茂 (ひがしげる)
	自治会 (真栄田区) 区長	安富祖正也 (あふそまさや)
	自治会 (塩屋) 区長	宮平英太 (みやひらえいた)
	自治会 (宇加地) 区長	饒波永善 (よはえいぜん)
環境省・沖縄県	沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課長	山川優 (やまかわすぐる)
	沖縄県環境部自然保護課長	出井航 (いでいわたる)
有識者	(公財) 日本交通公社 おきなわサステナラボ ラボ長	中島泰 (なかじまゆたか)
有識者	琉球大学 国際地域創造学部 観光地域デザインプログラム 准教授	大島順子 (おおしまじゅんこ)
自治体	恩納村役場企画課長	喜久山隆 (きくやまたかし)
	恩納村役場農林水産課 課長	平安名盛常 (へんなもりつね)

恩納村におけるオーバーツーリズムの解決に向けて、  
村民、関係者の皆様からの  
幅広いご意見・ご要望をお聞かせください。

※以下の二次元バーコードよりアンケートにアクセス



<https://questant.jp/q/9D6HVC4U>